

第九回 九州戯曲賞 最終審査過程

九州地域演劇協議会まとめ

■最終審査日時等

令和元年6月22日(土) 福岡市内会場

■最終候補作品(5作品)

宮田 晃志(鹿児島県鹿児島市)	『ヒツツ目の街』
日下 渚(大分県大分市)	『サヨナラ、我が家。』
山口 大器(福岡県北九州市)	『量子の歌声』
中島 栄子(福岡県福岡市)	『BERLIN』
松岡 伸哉(福岡県福岡市)	『海が降った夏』

■最終審査員

佐藤信 横内謙介 松井周 中津留章仁 桑原裕子

■審査結果

大賞 山口 大器(福岡県北九州市) 『量子の歌声』

■授賞方針等

- ・大賞作が出た場合、原則として他の賞は出さないものとする。
- ・大賞作の水準に達する作品がない場合は、大賞なしとする。
- ・大賞作がない場合、佳作・奨励賞の賞を出すことができる。

■ 審査過程

審議に先立ち、審査員1人につき○一票、△一票とし、1回目の投票を行った。

『ヒトツ目の街』	△1票
『サヨナラ、我が家。』	○2票、△1票
『量子の歌声』	○2票
『BERLIN』	○1票、△2票
『海が降った夏』	△1票

続いて各作品について、審査員からの講評を行う。

宮田 晃志（鹿児島県鹿児島市） 『ヒトツ目の街』

子どもたちがみな一つ目模様のお面を被っているという不思議な風習が残る奇妙な村の物語を、大人になった主人公の回想という形で描いた作品。

ホラーのタッチの引っ張り方や、伝承のくだりについての着眼が評価された。物語の迫力があり、鉛筆がめり込んでいくシーンにはドキドキさせられたとの声もあがった。

一方、夢や回想を使った語り口が多い点や、主人公が動かずキャラクターとして薄いことから受動的な印象を受けるなど、行ったり来たりせずにストレートに話を進めてほしいとの意見もあった。

日下 渚（大分県大分市） 『サヨナラ、我が家。』

空き家問題を基盤に置き、家の処分に対して意見が割れる子どもたちの様子を「家」と「家族」の記憶を織り交ぜながら描いた作品。

最終候補作中最も完成度が高く、作者の狙いは成功しているとの評価。セリフのセンスも良く、姉妹が間違われるくだりやカレンダーの書き込みのシーンなど演劇的にも面白いとの見方もあった。

一方、春樹の気持ちの変化が分かりづらく、存在感が薄くなってしまったということや、空き家問題というテーマについてコマーシャル的な印象があるのが気にかかるとの指摘があった。

山口 大器（福岡県北九州市） 『量子の歌声』

宇宙に飛び出し、脳波だけで交信する「五感」を失った3人が、地球への帰還を目指す物語。生命の誕生に、量子力学の要素が絡み合う内容となっている。

ストーリーとしてもよくできており、セリフも面白い。動きがあり、劇場の嘘の付き方が上手い、量子力学という要素も活かしているという評価があった。

一方、五感を取り戻す過程が記号的に感じられるため何か一工夫あると良い。登場人物の人格を役者に任せている部分が大きいと、作者自身の文体を手に入れてほしいとの見方もあった。

中島 栄子（福岡県福岡市） 『BERLIN』

ベルリンの壁崩壊からユーロの導入まで、時代に翻弄される人々のドラマを、同時期の就職氷河期を迎えた日本と重ねて描いた作品。

手に余るような大きなテーマに格闘する姿勢が評価された。何でもないようなものを面白く描く力があるのではないか、と作者の筆力・可能性に期待する声もあがった。

一方、アクションや双子のギミックの扱い方について粗が目につくとの指摘があった。エンターテインメントとして作るのであれば、その枠を作るべきとの見方があった。

松岡 伸哉（福岡県福岡市） 『海が降った夏』

女優を夢見て上京した主人公が数年ぶりに故郷に帰ってきたことから始まる物語。主人公が生まれるまでのエピソードが同時進行的に描かれる。

地元・九州をうまく捉え、登場人物たちが関係性の中で自然な会話を広げられている。何気ないやり取りや、タイトルへの繋げ方など技術・演劇的センスが評価された。

一方、楓のシーンについては他人という枠になった途端に書ききれていない印象を受けたとの声や、時間の重なりの効果に疑問が残るとの意見もあった。

（休憩）

一回目の投票結果、及びその後の各作品の講評などを鑑み、下記の3作品に絞って再度講評を行なうことの提案があり、全審査員の合意が得られた。

『サヨナラ、我が家。』

『量子の歌声』

『BERLIN』

また、過去と比較して検討しても今回の候補作は賞に値すると認められ、大賞を出すという方針が確認され、それぞれの作品についての弱み・強みについて議論を重ねた。

議論の結果、『BERLIN』については作者の可能性は大いに認められ、背中を押したいという声があるものの、授賞にはもう一步を期待したいとの結論となり、『サヨナラ、我が家。』、『量子の歌声』の2作品に絞ることとなった。

2作品を対象候補として、さらに議論を続けるが意見の一致に至らない。審査員の持ち票を一票として投票を行った。

『サヨナラ、我が家。』・・・2票

『量子の歌声』……………3票

この結果を踏まえて、『量子の歌声』を大賞とすることについて、異議のある審査員がいないことを確認し『量子の歌声』を大賞作品として選定した。